



研究組織

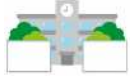
秦野市教育委員会

研究テーマ: 学びの高まりと授業改善

・校内研究に対する積極性と授業改善への意欲向上を図ることを目的にテーマを設定。

《役割》

推進校の取組の支援、教員の指導力向上、研究情報の共有化・成果の普及、全国学力・学習状況調査等の分析・結果の活用提起



★ 学校との協働的研究



★ 学びの連続性を踏まえた中学校区ごとの協議等

<学びづくり推進研究会>

実施: 年3回(+α)
 内容: 学力向上アドバイザーによる講演及び協議、報告等
 構成: 教育指導課・研究所指導主事
 小中学校22校担当者(1名ずつ)
 希望者(※講演内容による)

推進校名	研究テーマ
東小	自分の考えをもち、生き生きと表現できる子どもを目指して～書くことが「楽しい」と思える授業づくり～
末広小	自分の考えを伝え合って、学びを深める子の育成
堀川小	意欲的に学ぶ子を育てる授業づくり～学びを深める数学的活動を通して～
大根中	子どもの確かな成長をめざす授業力の向上～授業UDを取り入れた小中連携の視点から～
南が丘中	「学び合い、高め合う授業づくり」～「学び合い」を通して人間関係を育む道徳教育～
広畑小	「特別の教科 道徳」の授業の工夫～思いや考えを伝え合う活動を通して～

《兼システム委託校》

家庭学習等を通じて、「子ども一人ひとりの学びづくり支援システム」を実践的活用(広畑小のみ)

教育委員会主催の「学びづくり推進研究会」等

<p>第1回学びづくり推進研究会(書面開催)</p> <p>《推進研究会の目的》 新学習指導要領の趣旨や内容について理解を深めるとともに、全国学力・学習状況調査の問題及び結果の分析をとおして、授業づくりや評価方法等の改善につなげる。 《書面開催内容》 ・昨年度の全国学力・学習状況調査の問題の出題意図やねらいについて分析し、感想を報告。 ・報告した感想は、第2回推進研究会の協議資料として活用。</p>	<p>第2回学びづくり推進研究会(9/23)</p> <p>講演:『新学習指導要領に基づく授業づくりとその改善～単元で考える例で考える～』 講師: 両角達男教授(横国大) 協議会: 中学校区ごと ・リモート講演後、3会場で実施 ①小中学校それぞれの段階で育てていきたい児童生徒の資質能力について ②コロナ禍において、新学習指導要領にある「主体的・対話的な深い学び」をどのように実現するか</p>	<p>新たな学び研修講座(11/24)</p> <p>講演:『「主体的・対話的で深い学び」を実現させるためには～国語科の事例を通して～」 講師: 高木 まさき副学長(横国大) 報告: 教育指導課より ①令和2年度全国学力・学習状況調査の問題分析について ②求められる資質・能力について ③校内研究への参加体制、課題解決教材の作成等について紹介</p>	<p>第3回学びづくり推進研究会等(1/26他)</p> <p>演習: 課題解決教材(本市作成)の問題検討 報告: 学力向上施策先進地区視察報告等</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★高木副学長による講演の様子</p> </div>
---	--	--	--

各校の校内研究会の取組

<p>東小</p> <p>★講演会及び年2回の授業公開</p> <p>・新学習指導要領における「書くこと」の指導内容及び言語活動例について、山梨大学茅野政徳准教授による講演と指導講評。 ・1年生1クラスの授業公開。児童が自分の思いを持って、主体的に活動に取り組んでいるかということについて研究協議を実施。(他学年で、1月にも授業研実施)</p>	<p>広畑小</p> <p>★年3回の授業公開</p> <p>・児童が道徳的課題を自分自身の問題として捉え、「考え、議論する道徳」への質的転換を図るための実践的研究。聖徳大学吉本恒幸名誉教授による講演及び指導講評。 《研究の視点》(1・3・4年で研究授業) ①視覚的な工夫 ②自分事としてとらえるための工夫 ③学習の記録を残すための工夫</p>	<p>★子ども一人ひとりの学びづくり支援システム</p> <p>・週末の宿題として課題を出し、月曜日に進捗状況をタブレットで記録。集約された情報などについては、担任が保護者面談等で資料として活用。(5年生)</p>
<p>堀川小・大根中</p> <p>★タブレット等を使ったPEHによる授業公開</p> <p>・1年生3クラスの授業公開。研究協議後、数学的活動について、横浜国立大学向角達男教授による講演。(堀川小) ・3年生1クラスの社会科の授業公開。「視覚化」「焦点化」「共有化」による授業づくりについて、星槎大学阿部利彦教授による講演。(大根中)</p>	<p>末広小・南が丘中</p> <p>★評価の在り方についての研究等</p> <p>・新学習指導要領に基づいた評価の在り方や指導案の作成について、横浜国立大学白井達夫非常勤講師による講演。(末広小) ・新型コロナウイルス感染症対策の観点から講師招聘等を行わず、学年間での互見授業の実施や評価の在り方についての研究を実施。(南が丘中)</p>	<p>まとめ</p> <p>今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、年度当初に計画していた研究協議等の見直しを図る必要があるなど、各校とも研究の推進に困難を抱えていた実情がある。 しかし、各校とも感染対策を十分に講じ、授業公開や研究会の持ち方について工夫しながら研究を進めてきたことは、今後の校内研究の在り方等を方向づける機会となったと考える。特に、今年度は「対話的」の本質について考える機会が多く、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点について、協議会等をもちながら、協働的に研究を深めることができた。</p>